Koyo Singapore Bearing（PTE.）Ltd.
－光洋シンガポール－

1．会社概要

社　名　Koyo Singapore Bearing（PTE.）Ltd.
所在地　シンガポール共和国ジュロン工業地域
創　立　1972年
資本金　100万シンガポールドル
従業員　32名
業　種　各種Koyo製品（玉軸受，ころ軸受他）の輸入および輸出販売

2．地域の紹介

シンガポールは東アジア・西アジア・西欧の接点マラッカ海峡に面する小さな国で，その広さは東京23区の60％でしかなく，人口は約300万人．しかし，その地勢学的優位から貿易の中継地点として，東南アジアの金融市場として，さらに今では積極的な海外企業誘致により，工業だけでなく多くのデパート等が進出し，国益優先の徹底した自由競争主義がシンガポールの協力な経済を作り出している．シンガポールは「ガーデンシティ」と言われるほど街中に緑があふれ，数多くの高層ビルも計算されたように配置され，美しく整理されている．一年中咲いている蘭やブーゲンビリアの花は空港周辺のハイウェイから街中まで続き，観光客の目を楽しませてくれる．

高層ビル群

反面，有名な罰金制度があり，「タバコのポイ捨て」や「道に唾や痰を吐いたら」「地下鉄内の飲食」「チューインガムの製造・輸入・販売」など，えっと思うことまでも管理されている．

シンガポーリアンはジョークで「シンガポールはfineの国」とよく言う．（fineは "素敵な" と "罰金" の２つの意味がある．）

シンガポールは中国系80％，マレー系10％，インド系５％の人々で構成されている複合民族国家で，それが混ざり合ったのではなく，それぞれが独立して色濃く残っている．街を行けばある一角はイギリスで，またある地域は中国で，次の路地はインドであったりする．宗教も仏教，キリスト教，イスラム教，ヒンドゥー教と幅広い．

シンガポールの気温は一年中ほとんど変わらず，日中の最高気温は年間を通して31～33℃に納まるので，日本の夏が一年中続いてる感じ．気候の変化がほとんどないため，日本のような春夏秋冬のメリハリが感じられない．観光客にとってはいつ来ても大丈夫な街とも言える．

公用語は英語，北京語，マレー語，タミール語（インド語の１つ）である．しかし，中国語方言（広東語や福建語他）やインドネシア語までが入り混じり，独特のシンガポール言語になっていて，家族，友人，ビジネスなどでの会話は自動的に言葉が切り替わり大変おもしろい．

日本人は現在約２万人がシンガポールに在住していて，駐在員の多くがコンドミニアムに住んでいる．シンガポールの治安や住居のセキュリティはしっかりしていて不安はあまり感じない．

町の中心のオーチャードロード周辺には高島屋や伊勢丹，そごう，大丸などの日系店があり，日本で買うよりも多少高いものの日本食などほとんどのものが手に入るし，水道水が飲めるくらい清潔なので食生活で困ることは少ない．

シンガポールには約２千名の児童が通っている，おそらく世界で最大規模の日本人学校がある．多くが駐在員の子女のため，毎学期多くの児童の転入・転出があることを除き，日本国内と同様の学校生活をおくっている．ただ，小学校から英語の授業がプログラムに取り入れられているし，中学校では「イマージョン教育」といって体育・家庭科などの授業をローカルの先生が英語で行うといったユニークなプログラムもある．

休暇は海外旅行やゴルフといった過ごし方が駐在員では一般的で，ショッピングやゴルフといっても安価なマレーシアやインドネシアに行くこと

も多い．周辺にあるマレーシアやインドネシアのティオマン島やビンタン島までわずか１～２時間の距離だが，すばらしいビーチリゾートで楽園気分が味わえる．

３．会社の紹介

1972年にKoyoの販売拠点として営業を開始したが，1979年に現在の光洋シンガポールとなった．1997年８月に事務所／倉庫を現在のジュロン工業地域に移転した．(約2700㎡)

フィリピンとインドに現地事務所を置いている．

光洋シンガポール事務所

業務はシンガポール国内だけではなく，周辺各国への営業・輸出が主で，14ヶ国と非常に広いテリトリーで日常の営業活動を行っている．

中国系，マレー系，インド系といった文化も宗教も違う人々が住むこの地域の営業活動は，言語も通貨も異なり，なかなか難しいものがある．

また，アジア各国にたくさんあるインダストリアルパークには，有名な日本企業が必ずといっていいほど工場や事務所を構えていて，時折海外にいることを忘れるほど日系企業による東南アジアへの進出が非常に進んでいる．

当社の業務は，日系企業だけでなくローカル企業への販売活動，新規開拓活動，代理店経由の販売促進，輸出を行っている．

日系企業とローカル企業のまったく異なる幅広いニーズにこたえるため，在庫の品揃えを充実させる一方，数十万個／ロットといった非常に大きなボリュームの商品が到着後，保管棚に入れられることなく直ちに梱包～出荷されるといった光景も毎日のことである．

４．今後の展望

1998年突如起こったアジア通貨危機によって周辺諸国は深刻な打撃を受け，急激に市況が悪化してから１年，徐々に景気は落ち着き，ようやく底を打ったというのが現在の一般的な見方である．しかし，その間におきたベアリング価格の急落や在庫のアンバランスなど，調整しなければならない案件が多く残っている．

タイ，フィリピン，マレーシア，インドネシアといった周辺の国々までわずか１～３時間の距離に過ぎず，これらの国々のほぼ中心に位置するシンガポール経済はこの危機にも非常に強いものを見せ，いまだこの地域の経済の中心であると同時に回復への牽引役を担っている．

近年，日本もしくはアメリカ，韓国から東南アジアへ生産移管をさらに加速させる企業も多くなり，「日本(本社)で開発～アジアで生産」型から「アジアで開発・生産」型への移行がさらに進むと予想される．

（光洋シンガポール　MD坂本敏之／成瀬晃二）